

設 立 趣 旨 書

NPO法人 みのお山麓保全委員会

「春の山桜」「夏の緑」「秋の紅葉」「冬の積雪」—私たちは、日々、箕面の山麓の四季の変化に富んだ美しい山なみを眺め、あるいは触れ合う中で、暮らし、働き、憩い交流しています。

私たちは、この箕面の山麓を、将来にわたって守り活かしていきたいと心から願っています。ところが、近年、里山から松たけや赤松、笹ゆりなどが姿を消しつつあり、せっかく植えた杉や桧の植林の多くも経済的な価値が少なくなり放置されたままです。今箕面の里山の森林や自然生態系が変化し、その質が劣化しつつあります。

さらに、箕面の山は古代から、巡礼の道が巡り、また修行の場でもあり、また山にまつわる火祭り「マンドロ」など様々な里山文化が育まれていましたが、近年はこうした山を尊び親しむ文化は薄れる傾向にあります。そして、ついに山をごみ捨て場などにする人たちも現れています。

こうした中、今では山林所有者の多くが里山の管理に関心を失ない、あるいは、できなくなり、市民の多くも箕面の山なみの景色を美しいと思いつつも、里山を経済的に労力的に支えようという気運にはまだ十分に至っていません。

このように近年の社会経済的な変化の中で、里山を支える人々の力が弱まったことが、今の里山が迎える最も大きな危機といえるかも知れません。

箕面の山麓などの里山は、都市地域と自然地域との境目にあり、今では矛盾が集中し多くの悩みをかかえています。本来は両地域の重なりの中で各々の特性を反映した豊かで恵みの多い“人と自然が調和した地域”です。

私たちは、風景・貴重な自然や生態系の保護・自然とのふれあい・山の幸づくり・里山文化など、箕面の山麓への多様な期待に応えるため、時代の流れにそって新たな視点から里山としての豊かな可能性と魅了を引き出し、こうと考えています。

私たちは、多くの人と組織を結び仲人役を果たす中で、山林所有者・市民・行政の三者の協働という枠組みに基づいて、山麓を守り生かすための社会的・人間的な関係を再構築する事を決意し、その基本方向をとりまとめた「山麓保全アクションプログラム」（平成14年（2002）3月、箕面・山麓保全検討委員会）を普及・推進していきます。

以上を推し進める母体・仲人組織（中間支援組織）として、私たちは特定非営利活動法人（NPO法人）となることにより活動の体制を整え、多くの人と組織と連携して、箕面の山麓について美しい山なみ景観や多様な環境や資源からの恵みを人々が将来にわたって享受できるよう図ることを目的として、この法人を設立します。

2003年 3月8日